

令和元年度小松市立荒屋小学校 学校評価 2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
組織 運 営 な 学 校	＜学校経営ビジョンの具現化に向け、全職員が互いに「協働」「信頼」「支えあい」を基軸とし、課題意識を持って、積極的にその改善に努める。＞	1学期末業務改善についての達成率は81%である。昨年度末は92%であったが、異動によって教員の半数が変わったために積極的な改善がそれほど進まなかったといえる。ただ、肯定的な回答は100%であるため、一定の評価はできると思われる。今後はさらに業務改善に向けて、より積極的な見直しを行っていく。	今年度最終の達成率は86%となり、微増であった。2学期から会議の開催方法について見直しを行い、会議にかかる時間が削減できた。校長ビジョンの具現化に向けて、今後もより効率的な会議や行事の見直しを行っていく。
	・企画委員会でのPDCAサイクルの確認。 ・前例踏襲ではなく、常に現状にあった改善した取組を行う。		
人 材 育 成	＜協働で高め合う姿勢をもって、校内研修やOJTに意欲的に参画し、学校力の向上を図る。＞	1学期には6回のOJTを実施。教職員アンケートでは、積極的な「若手に対してアドバイスや助言」の達成率は86%、共に学び合う達成率は92%であった。「チーム荒屋」として取り組んでいる良い結果が見られる。このよい傾向を維持して今後もチームとして取り組んでいく。	2学期には9回のOJTと全教員の研修報告を行った。若手教員が講師となってプログラミング学習の説明や実習を行ったり、若手養教による食育の指導など若手の積極的で意欲的な活動ができた。これらによって全職員が学校運営の主体者として活動することができた。
	・1学期3回、2学期6回、3学期4回のOJTの実施 ・全職員が講師の役を務め、内容や開催時期を検討し効果的な研修をめざす。		
生 徒 指 導	＜学びの基盤となるあたたかな人間関係の構築・児童主体の自治的活動＞	・学級会、代表議会を計画的に実施し、児童自らがクラスや学校の課題に目を向け、共有している。今後は児童の自治的活動となるよう、各委員会で企画書を提出するなど取り組んでいきたい。 ・毎月行っている生活目標のふり返りではできたことを確認することにもなり自己肯定感を高める場となっている。しかし、乱暴な言葉を使用することがきっかけとなりトラブルが起きている。今後はひかりの言葉や行動を心掛けられるよう、働きかける。 ・児童集会ではよりよい挨拶ができるように、全校児童に呼びかけをした。 ・4月のボプラ集会（縦割り活動）では、6年生を中心に仲良く遊ぶ姿が見られ、暖かい人間関係づくりの一助となった。また、その活動が運動会へとつながったため、今後も積極的に活動していきたい。 ・異学年交流や授業交流に積極的に取り組み、自己有用感や自己肯定感を高めていきたい。 ・隔週の火曜日にハートフルタイムを実施し、クラス内に暖かい人間関係が広がるように努めた。教室からは笑い声や歓声が上がり、児童が楽しみにしている時間となっている。	・各委員会が企画を考え、実行することができた。図書委員会は読書祭り、体育委員会はドッジボール大会など、それぞれの委員会の特徴がある企画を実行することができた。 ・委員会の仕事を通して、自分が誰かの役に立っているかなどを聞いた児童へのアンケートでは、一学期は肯定的な意見が5割に満たないほどだったのに対し、二学期末には肯定的な意見が95%を超える結果となり、自己肯定感や自己有用感が高まった。今後も「楽しかった」「またやりたい」と言われる企画を児童が考え実行していく。 ・2学期は異学年交流に積極的に取り組むことができた。6年生が1対1で1年生に本の読み聞かせをしたり、3年生がグループで2年生に3年から新しく始まる学習について伝えたりと、1対1や小集団で交流することで内容がしっかりと伝わった。交流後はどの学年も「やってよかった」「自信がついた」という満足した感想が多かった。 ・石川県教員総合研修センターの自主研修サポート事業を活用し、構造的グループエンカウンターとソーシャルスキルトレーニングを組み合わせた効果的な実践について研修をした。研修後は全学年一斉に同じ時間に同じ様式で取組んでいる。児童同士の対話が弾むようになり、安心して過ごせる学校づくりの一助となった。
道 徳 教 育	＜道徳性の涵養＞	・教職員アンケートでは、学校重点指導内容・学年重点目標について1学期に1回ずつ授業を行うことについての達成率は95.8%であった。2学期以降も実施の呼びかけをし、確実に取り組みが行えるようにする。 ・授業改善について達成率は79.2%であった。1学期は道徳の校内研修を1回行ったが、今後も校内研修の場を設定し授業改善に取り組む。 ・保護者に対しての道徳の授業公開は2学期以降の取り組みとなる。1学期は道徳ノートをも月に一度家庭に持ち帰ったり、校内の道徳コーナーに児童の道徳ノートを掲示したりすることによって、保護者に道徳の授業の様子を伝えることができた。これらの取り組みは今後も継続していく。	・教職員アンケートでは、学校重点指導内容・学年重点目標について1学期に1回ずつ授業を行うことについての達成率は89%であった。3学期末までにやり残しのないよう働きかけていきたい。 ・授業改善についての達成率は85%であった。構造的板書の工夫については、2学期より道徳コーナーに授業で残した板書の写真を教材文や児童のノートと合わせて掲示するようにした。それにより教師が板書の構造化をより意識して授業を行うようになり、他学年の板書を見てより良い板書を学び授業改善につなげたりすることができた。また、示範授業を見て問い返しの工夫などを学んだ学年もあった。 ・保護者に対して、道徳の公開授業を全クラスが行うことができた。
	・学校重点指導内容「思いやり」と学年重点目標「善悪の判断」（低）、「希望・勇氣」（中）、「規則の尊重」（高）を設定し、各学期それぞれ1回指導する。 ・「考え、議論する道徳」を目指し、授業改善に取り組む。 ・保護者に対して、道徳の時間を1回以上公開する。		
安 全 教 育	＜自ら考え、安全な行動をとる指導の充実＞	・各種訓練については、予定通りに行った。訓練に取り組む児童の様子は、第1回避難訓練時はやや雑然としていたが、第2回時は静かな行動が取れていた。第3回時には、さらに自ら考え安全な行動が取れるよう自覚を高めた。 ・通学路安全マップについては、生活部と連携し、昨年作成したものを、2学期に更新していく。 ・安全な行動を啓発するために、教室、廊下、運動場での安全な行動について全校集会で説明した後ポスターを教室に掲示したが、まだ廊下を走るなど安全な行動を取っているとは言えない。今後は、児童会とも連携し、児童の中から安全な行動を考えていくよう取り組みを進めたい。	・各種訓練等は計画通り実施することができた。火災対応の避難訓練時には、救助袋訓練もした。今後も児童には真剣に訓練に参加するように指導していきたい。 ・通学路安全マップを校内に掲示したり、教室・廊下・運動場での安全な行動について集会で説明した後に教室に掲示したりした。 ・児童による意識調査では「廊下を走っていて危ない」と感じているようだったが、安全な行動を考える取り組みにまでは至らなかった。 ・廊下を走る児童に対して注意をする児童もいるが、依然として廊下を走る児童がいるため、安全な行動をするように指導していきたい。
	・避難訓練3回（不審者、地震・津浪、火災）を行う。 ・集団下校訓練、交通安全教室を行う。 ・通学路安全マップを作成する。 ・教室、廊下、運動場など、場所ごとの安全な行動を啓発する掲示を行う。		
保 健 健 康 教 育	＜望ましい生活習慣の獲得を目指した指導の充実を図る＞	・メディアの使用状況と生活習慣に関する調査を5月と7月に実施し、それを基に集団指導したり、メディアの使用時間が長い児童や朝食を食べてこない児童、睡眠時間が短い児童に個別指導したりした。 ・メディアの長時間使用による体や生活に与える影響について保健だよりを通して情報提供、共通理解を図った。 ・保健委員会では、活動テーマに「メディア利用と健康」を取り上げ、学校保健委員会での発表に向けて活動している。 ・学校の怪我の状況把握を行い、それに合わせた啓発活動を継続していく。けがマップの活用を行う。	・メディアの使用状況と生活習慣に関する調査を5月・7月・12月に実施し、それを基に集団指導したり、メディアの使用時間が長い児童や朝食を食べてこない児童、睡眠時間が短い児童に個人指導したりした。1月の保健指導では、「ゲーム障害」に焦点を当て、メディア依存の恐ろしさや、正しい付き合い方について指導を行った。 ・保健委員会では、活動テーマに「メディア利用と健康」を取り上げ、学校保健委員会で劇をまじえて発表し、3～6年児童と保護者に向けて啓発することができた。 ・メディアの使用状況と生活習慣に関する調査では、12月では、わずかにルールを守れていない児童が増えた。しかし、運動や朝食の習慣はほぼ全員の児童が身につけている。 ・メディアを利用しすぎないことは健康にとっても生徒指導面にとっても重要なことなので、今後も指導を続けていきたい。
	・メディアの使用状況と生活習慣に関する調査を年に4回実施し、生活の分析、把握を行う。 ・調査結果をもとに集団、個別の保健指導を行う。 ・調査結果やメディアの利用状況についての情報を保健だよりで提供、共通理解を図る。 ・保健委員会の活動テーマに「メディア利用と健康」を取り上げ、活動し、啓発する。		
特 別 支 援 教 育	＜支援が必要な児童に、個に応じた適切な支援を行う＞	・全児童について気づき票一覧で実態を確認した後、点数の高かった児童について気づき票を記入することで支援が必要な児童の実態を把握した。気づき票を記入した児童については、校内委員会を開催し、具体的な支援策を話し合った。次回の校内委員会は8月末に開催し、1学期の支援のふり返りと2学期の目標について話し合う。今後、2学期末と年度末に開催を予定している。 ・児童の生活の様子や学習状況について情報交換を密にし校内で検討した結果、1名の児童について保護者の承諾のもと専門相談員の派遣を依頼し、その後医療機関を受診することになった。その他に1名が保護者の承諾のもと、専門相談員の派遣を依頼することになった。 ・不登校児童に対しては教育研究センターと連携を密にし、支援を継続している。 ・職員アンケートでは、「気づき票や児童理解を通し、支援が必要な児童を把握している」「情報共有を密に行い、支援に活かしている」の2項目とも達成率が97%と高くなっており、今後も取組を継続していく。	・校内委員会を定期的に開催し、支援が必要な児童の具体的な支援策を話し合うことができた。 ・ことばの教室には3名の児童が通級していたが、1名については構音が改善されたため退級した。 ・児童の生活の様子や学習状況について情報交換を密にし校内で検討した結果、2名の児童について保護者の承諾のもと専門相談員の派遣を依頼し、そのうち1名についてはその後医療機関を受診した。また、他の1名については、保護者と学校での様子を伝え、医療機関受診を勧めた。 ・不登校児童に対しては教育研究センターと連携を密にし、支援を継続した結果、保護者付き添いのもと週に1回程度登校できるようになった。 ・職員アンケートでは、「気づき票や児童理解を通し、支援が必要な児童を把握している」「情報共有を密に行い、支援に活かしている」の2項目とも達成率が85%以上、肯定的評価が100%と高くなっており、今後も取組を継続していく。
	・気づき票により支援が必要な児童を把握し、共通理解する。 ・校内委員会を定期的に開催し、支援策を話し合う。 ・情報交流を密にし、支援に活かす。		
家 庭 ・ 地 域 と の 連 携	＜信頼される学校づくり＞	学校行事に対して地域や保護者はとても協力的である。昨年度末の保護者アンケートでは、達成率79.8%だったが、今年度1学期末には82.3%に微増した。ただ、学年別にみると学年の学年末より下がっている学級もあり、評価は様々である。各種「たより」は定期的に発行され、保護者メールやホームページなども有効に活用されている。今後も保護者や地域の信頼を得るために効果的な情報発信に努めていく。	2学期も数多くの保護者の協力を得て、各種行事を行うことができた。わがまち防犯隊が新たに20名も追加となり、地域の方に見守られて児童の安全が維持されていることに感謝している。また、ホームページをリニューアルした。見やすい画面になり、ホームページの閲覧数も順調に増加している。保護者あての緊急メールは必要な時に限り発信している。
	・各種「たより」を定期的に、また必要に応じて適宜発行し、情報の公開や発信に努める。 ・学校のHPやメール配信を活用し、保護者や地域住民等と教育活動の共有を図る。		

学 校 関 係 者 評 価	6/27 学校評議員会より ・児童アンケートの文面が難しいのではないかと。保護者アンケートの内容の中に、学校の様子がわからないので答えられないものもある。特に一年の保護者には難しい。 ・情報モラルについてもアンケートの視点の一つに加えてはどうか。 ・荒屋小の児童は人懐っこい。クラスを見て回ったが勉強はしっかりやっているようだ。その学年ごとの反応があり前向きにやっている。落ちついた感じである。 ・姿勢が悪い児童がいるようだ。ゲームをしているときのように顔を近づけて本を見ている。なるべく姿勢を正しくするように声掛けをお願いしたい。目も悪くなる。 ・鉛筆の持ち方がおかしい子が何人かいるようだ。なかなか直らないが、低学年のうちに直してあげられないか。 ・田植えの後の田に、下校時に石を投げる児童がいたので近くまで行って注意した。後日同じ田に田に薬を投げ入れられたら、喜んで手伝ってくれた。投げてよいものと悪いものを区別してもらいたかった。 2/18 ・スマイルタイムやハートフルタイムとは何か。 ・学校現場ではICT化についてどのように進んでいるか。あくまでもツールであるから必要か見極めて使用すべきである。 ・道徳の学習は有意義な時間にしてほしい。 ・学校に楽しく通っている項目が下がっているのはなぜか。 ・家庭学習で音読を全学年で取り組んでほしい。 ・図書の貸し出し数について表彰などを行って意欲付けに取り組んでほしい。 ・勉強が苦手な児童に対してどのような対応を行っているのか ・片親世帯と学力の低下について関係していないか。 ・あちやっ子会議やもくもく掃除は中学校との連携で行っているが、とても良い取り組みである。
---------------------------------	---